

## 令和7年度第4回岡崎市環境審議会 会議録

### 1 開催日時

令和8年2月13日（金）午後4時から午後5時まで

### 2 開催場所

岡崎市役所東庁舎2階大会議室

### 3 内容

- (1) 岡崎市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の改定について（答申）
- (2) 岡崎市地球温暖化対策実行計画の年次報告について（報告）

### 4 出席委員の氏名（五十音順）

#### (1) 出席委員

石川裕子、今村ひとみ、岩月幹雄、片岡明博、河江喜久代、川田奈穂子、香坂玲、阪口奈央、佐谷智、杉浦清、鈴木雅良、鶴田和男、鳥山紀幸、橋本啓史、渡邊幹男

#### (2) オンラインによる出席委員

吉永美香

### 5 説明のために出席した職員の職氏名

環境部長：加藤元

環境部次長兼ゼロカーボンシティ推進課長：木村敏弘

ゼロカーボンシティ推進課：副課長 植村信幸、事業企画係長 武藤康弘、事業推進係長 平岩靖弘

### 6 出席した事務局の職氏名

課長：山田章博、副課長：神谷雅範、環境政策係長：中村亮太、主事：生田総司、主事：荒井千咲子

### 7 議事要旨

#### (1) 岡崎市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の改定について（答申）

ゼロカーボンシティ推進課長から、事前送付した資料から修正した部分及び答申内容について説明した後、質疑応答がなされた。

（杉浦委員）

目標によっては数値化しにくいものがあり、それが心持ちだけの目標にな

らないか、また、そういったものを数値化して客観的な判断をするために、  
どういった工夫をしていったらよいか気になった。

(ゼロカーボンシティ推進課)

各種取組の評価について数値化させることは課題だと思っている。6期の  
計画の中で省エネ診断を行い、各種ポイントごとの数値化や、それに伴う目  
標値の設定は進めていきたいと思っている。

(杉浦委員)

前回の審議会でも依頼したが、取り組んでいる内容をいかに市全体に広め  
るかという視点を常に持って置いてほしい。

(渡邊会長)

数値化しにくいところに関しては、アンケートを採用してもらおうとほとん  
どのものが数値化できるようになると思うので、検討してほしい。

(香坂委員)

人口が減り、税収が減ってくることを今から意識しているのは必要なことで、  
その中で温暖化の適応策や自然保護等を考えていってほしい。

(渡邊会長)

原案に修正はないので、原案を答申とする。

## (2) 岡崎市地球温暖化対策実行計画の年次報告について (報告)

ゼロカーボンシティ推進課長から、岡崎市地球温暖化対策実行計画の年次  
報告について説明した後、質疑応答がなされた。

(川田委員)

岡崎市は森林が多く、森林の活用が重要だと思っている。例えば、補助金の  
使い道として、薪ストーブの薪のように、木材の活用についての補助金等は  
検討しているか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

岡崎産木材に限らず、地域の木材の利用促進はやっていく必要があると思う。  
補助事業について、環境部としては検討していないが、経済振興部局とは常  
に情報共有しており、どちらかの部局で、必要であれば補助等ができないか  
は考えている。また、商品化や流通等についても市が補助していることもある。  
また、公共施設における木材の利用も促進できるよう意識が高まっている。

(渡邊会長)

薪等で燃やしてしまうとCO2固定ができなくなってしまうので、CO2固定をす  
るのであれば、森林のままにする等のことも考えていく必要があると思う。

他市では、すぐにEV車と分かるようなラッピングがされているが、岡崎市は

そうっていないと思うので、そこら辺もやれるようになると市民への大きいアピールになると思う。EV車や太陽光パネル、蓄電池等も導入しましたというだけでは市民は分からないので、避難所等で関係のある高校生らとタイアップして高校生が発表等すると、市役所が説明をするよりも高校生の方が市民も興味を持ちやすいと思う。

(今村委員)

お金がかかる補助事業が多いので、今後の働きかけとして、市民が気軽にお金がかからずにできる活動を考えていけたら良いのではないか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

御意見の通り、市民一人一人が何か取り組めることというのが重要だと思っている。保育園等では、グリーンカーテンによる暑熱対策といった取組をやっているが、先の杉浦委員の意見でもあったが、もっと取組をアピールし、真似してもらえるような仕掛けを考えていきたい。

(杉浦委員)

環境のことを意識が高くて先行した取組を行っている人たちに対して、意見を吸い上げる場を作ってもいいのではないか。

(鳥山委員)

研修や教育の話になるが、庁舎内での地球温暖化対策の取組を市の職員が知っていなければならないし、脱炭素にかかる職員研修等も一度出て終わりではいけない。地球温暖化対策の取組は、自分の身近な問題であり、継続していく必要があるので、職員も研修に出たならばその成果を何らかの形で続けていけば、市内全域に広がっていくと思う。

## 会議資料

令和7年度第4回岡崎市環境審議会次第

岡崎市環境審議会委員名簿、配席図、諮問書

岡崎市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）の改定について（答申）

資料1：岡崎市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）第6期【概要版】

資料2：岡崎市地球温暖化対策実行計画の年次報告について